

## ジョセフ・ヒコ居宅跡 中山手通 6 丁目



ジョセフ・ヒコは元の名を浜田彦蔵といい、1836（天保 7）年に県下の加古郡で生まれた。1850（嘉永 3）年、彼が 15 歳の時、江戸から兵庫へ船で帰る途中、遠州灘で暴風にあい漂流していたところをアメリカ船に救われて、サンフランシスコへ着いてしまった。一年後、彼は便船で送還されたが、香港に滞留中に志し新たに再びサンフランシスコに引き返したのであった。その後、苦勞を重ねながら、ミッションスクールに通い、カトリック教徒となり、日本人としてはじめてアメリカに帰化したのである。そして、1859（安政 6）年に日本が開港する際、米国官吏として日本へ帰った。漂流以来 10 年目のことである。1862（文久 2）年から横浜に住み、その間わが国最初の新聞である「海外新聞」を発行した。1875（明治 8）年に神戸にやって来て製茶貿易などを行ない、中山手通 6 丁目に家を建てた。1888（明治 21）年、彼が東京に移るまで、この地に住んでいた。

現在、神戸掖済会病院が移転したあとに建てられたマンションの入口東側の公開空地に、1935（昭和 10）年 6 月に神戸市が建てた「本邦民間新聞創始者ジョセフ・ヒコ氏居宅」の碑がある。なお、碑文には「氏ハモト濱田彦蔵トイヒ縣下加古郡阿閉村ニ生ル嘉永三年十五歳ノ時米國ニ漂流シ安政六年歸朝ス慶応元年海外新聞ヲ創刊シ明治八年本市ニ来リ貿易ニ従事ス同二十一年東京ニ去ル迄此西隣ニ居住セリ」とある。

場所：神戸市中央区中山手通 6-2

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著